

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クルハウス		
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数制による個別支援の充実が挙げられます。一人ひとりの子どもの特性や発達段階に応じた支援を行いやすい環境を整えており、落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごすことができる居場所となっています。	少人数支援の特性を活かし、子ども一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別対応を大切にしています。職員が子どもと丁寧に関わる時間を確保し、日々の様子や気持ちの変化を把握しながら支援を行っています	子どもとの関わる時間を大切にしながら、保護者や関係機関との連携をさらに深め、子どもの発達や生活面を含めた総合的な支援につなげていきます。
2	パソコン教育を取り入れたICT支援が特色となっています。クルハウスでは、タイピングや文章作成などの基本的なパソコン操作を学ぶ機会を設けており、子どもたちの将来の自立や社会参加につながる力を育てる取り組みを行っています。	タイピング練習やマイクラフトを活用した活動、文章作成、資格取得に向けた学習などを日常の活動の中に取り入れています。	ICTを活用した支援内容をさらに整理し、子どもたちの興味や特性に応じた活動の幅を広げることで、学びの機会をより充実させていきます。
3	地域に根ざした支援体制が挙げられます。クルハウスでは、子ども食堂やクルハウスまつりなどを通して地域とのつながりを大切にしており、地域の人々との交流を通じて子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを行っています。	イベントや地域活動への参加、地域ボランティアとの交流などを通して、子どもたちが様々な人と関わる機会を設けています。	地域行事や交流の機会を広げ、地域とのつながりをさらに深めることで、子どもたちが地域の中で安心して成長できる環境づくりを進めています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	少人数での運営を行っていることから、職員の負担が増えやすいという状況があります。	小規模事業所であるため、人件費の制約があり、十分な職員配置が難しい面があります。	外部研修の参加機会の確保やオンライン研修の活用などにより、職員がスキルアップできる環境を整えていきます。
2	パソコン支援などの専門的な取り組みを行っている一方で、日々の支援や記録作成、保護者対応などの業務が重なり、職員の研修(パソコン研修など専門分野の研修)の時間を十分に確保できない場合があります。	限られたスタッフ数で運営しているため、活動準備や振り返りの時間を十分に確保することが難しい場合があります。	ICTの活用や記録業務の効率化を進めることで、業務負担を軽減し、研修やスキル向上の時間を確保していきます。
3	地域に根ざした活動を行っているものの、活動内容や取り組みについて外部への情報発信が十分に行き届いていない部分があります。	日常業務が多く、活動内容や成果を外に向けて発信するための時間を十分に確保できないことが要因となっています。	広報や情報発信としてInstagramやFacebookなどのSNSを活用し、週1回程度の情報発信を目標として取り組んでいきます。